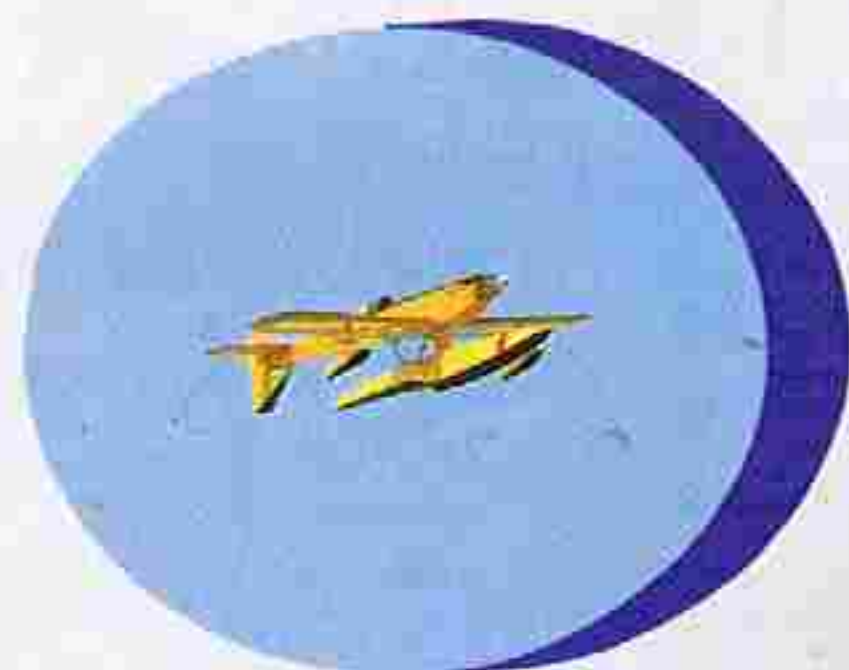


# ただいまシーズン真っ盛り

全長……1040mm(フロート含まず) 主翼面積……28.0dm<sup>2</sup>  
 全幅……1300mm 全備重量……1850g

翼型……12%準対称  
 プロペラ……MKグラス9 $\frac{1}{2}$ ×6  
 メイン・フロート長……850mm

## OSロータリーエンジン搭載 **アーチン** あそび心が生かされた楽しい水上機



大きなフロートを抱えているが、スピードは陸上機なみ。中スローで水平飛行中



本機の設計、製作者の安藤由隆氏(左)の手で快調にフライト。助手は同じ職場(日本航空)のRC仲間、浮島正博氏



**タッチ・アンド・ゴーも軽快!**

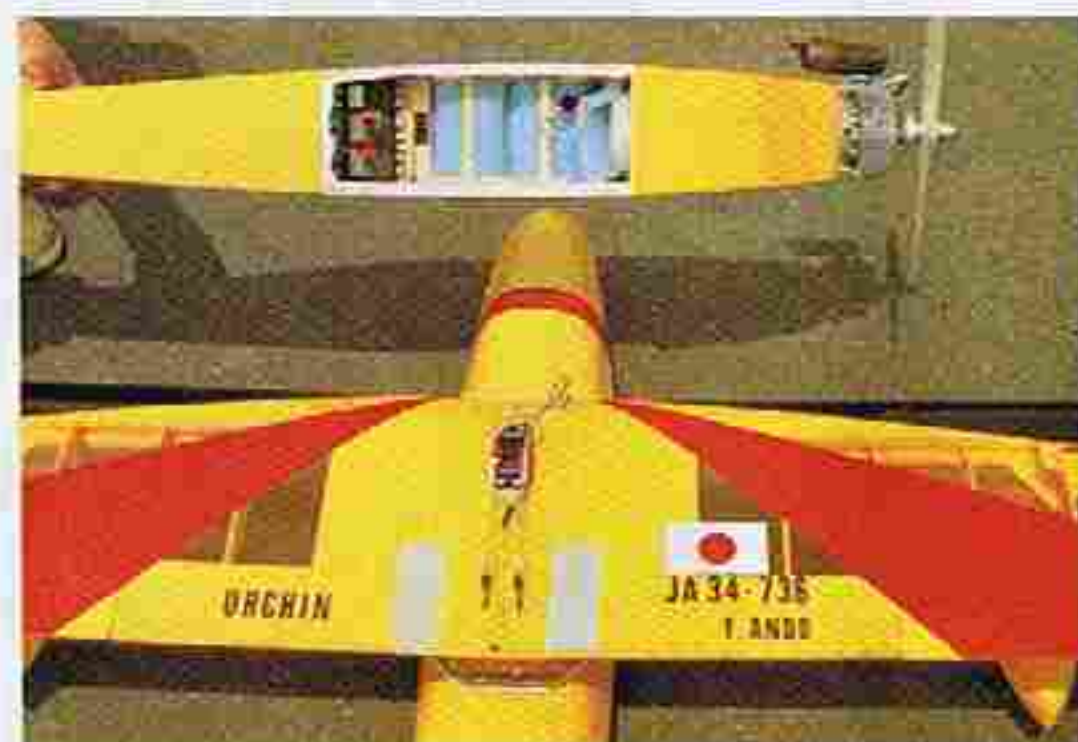
写真は左から「進入」、「着水」、「プレーニング」、「離水」の各ステップの瞬間。着水は機速をこらし、機体が跳びはねないように慎重に行なうのがコツ



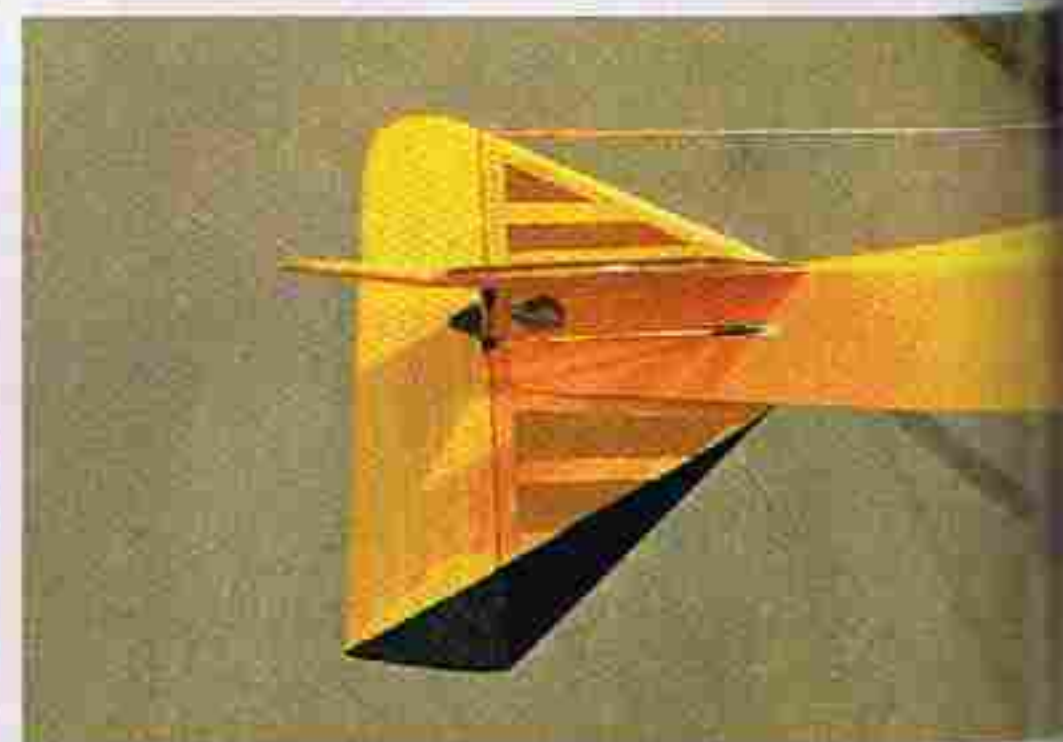
「アーチン(Urchin)」はいたずらっ子という意味。設計・製作は横浜に住む安藤由隆氏で、手持ちのOSロータリー・エンジンに合わせ、「ほんのいたずら心」で作ったという。完成まで2週間(!)足らずだが、写真で見る通り素晴らしい出来栄え。というのも、同氏は日本航空に勤務するメカニック。本機にも実機同様に細かな配慮がなされている。単フロートを採用したのはスタイル優先のためだそうで、クラブ仲間の松田恒久氏のアドバイスを受けてフロート形状を決定、きれいな離着水が可能だ。エンジンとのマッチングにも優れ、陸上機の軽快さと水上機の優雅さを兼ね備えた楽しい機体に仕上がっている。胴体、主翼ともフィルム張り、フロートのみ紙張り塗装仕上げ。軽量で水に映えるデザインだ。



メイン・フロートは胴枠に甲板張り。下面の中央から後方にかけて凹状の曲面をもたせ、離水性能を向上。サブ・フロートはバルサの削り出し



RC装置はフタバ・チャレンジャーPCMを搭載。4ch4サーボ使用。主翼と胴体の接合面はバスコークで防水処理を…



タキシングおよびハンプ時に下部が水中舵として働く垂直尾翼。テトラ製水上機シーダートでもおなじみの形だ

(撮影場所/コスモ・フライング・クラブ飛行場 協力/モデルショップ・ナカムラ)